

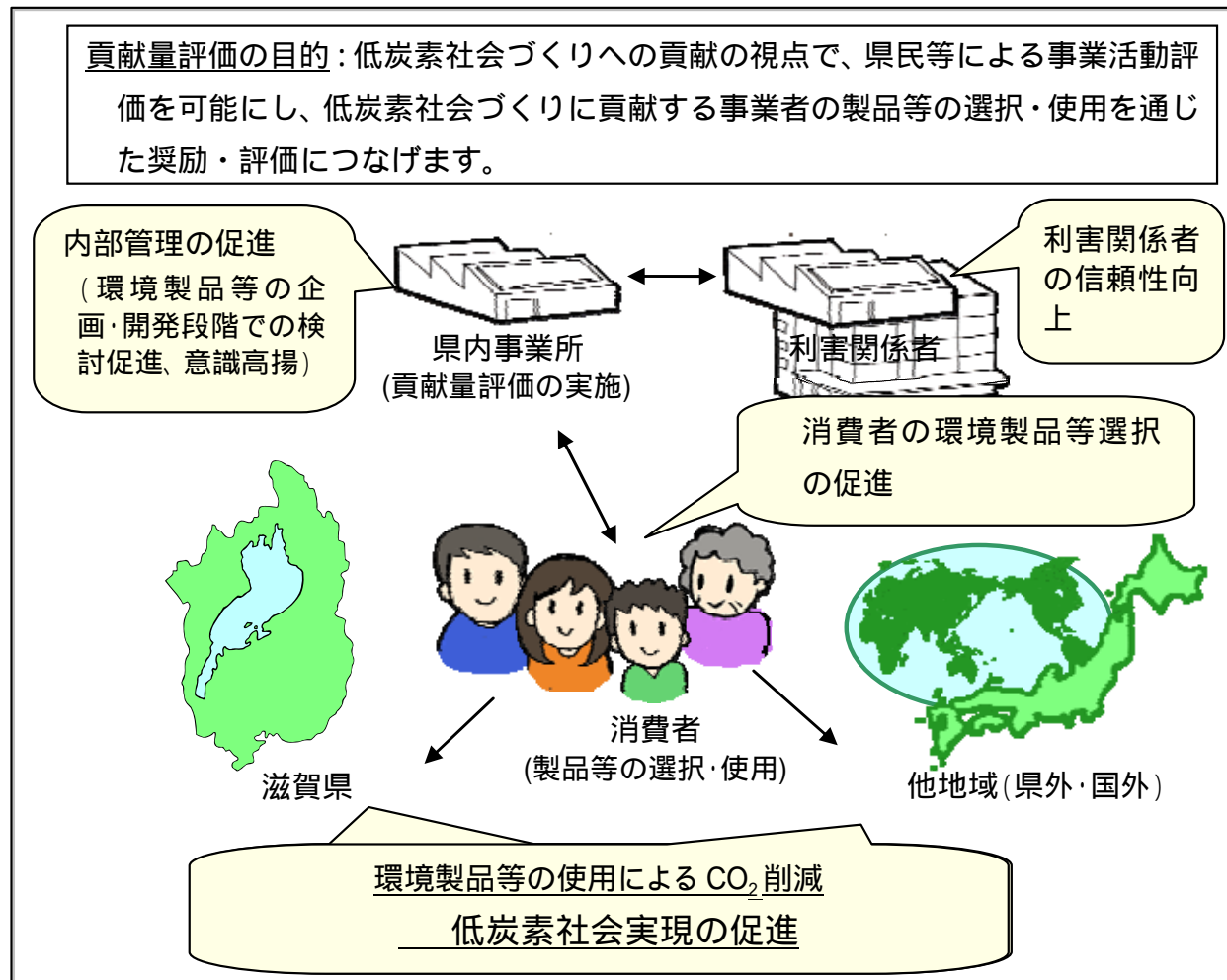
**「滋賀県製品等を通じた  
貢献量評価手法  
算定の手引き」の概説**

# 1 . 貢献量評価検討の概要

# 1 - 1 . 製品等を通じた貢献量評価をする目的

## ■貢献量評価する目的

低炭素社会を構築するためにどのような製品等を生み出したのかの視点で、県民等による事業者の活動の評価を可能にし、「低炭素社会づくりに貢献する関連企業に対する奨励、評価につなげる」こと。



# 1 - 2 . 貢献量評価とは

～ 事業活動を見る新たな評価～

## 行動計画書制度の対象取組



## 他者での削減(使用段階等)とは...

事業活動しない場合



使用段階等の  
CO2排出大

事業活動した場合



CO2  
排出小

-  
(差)

=

県内での環境製品  
などの生産

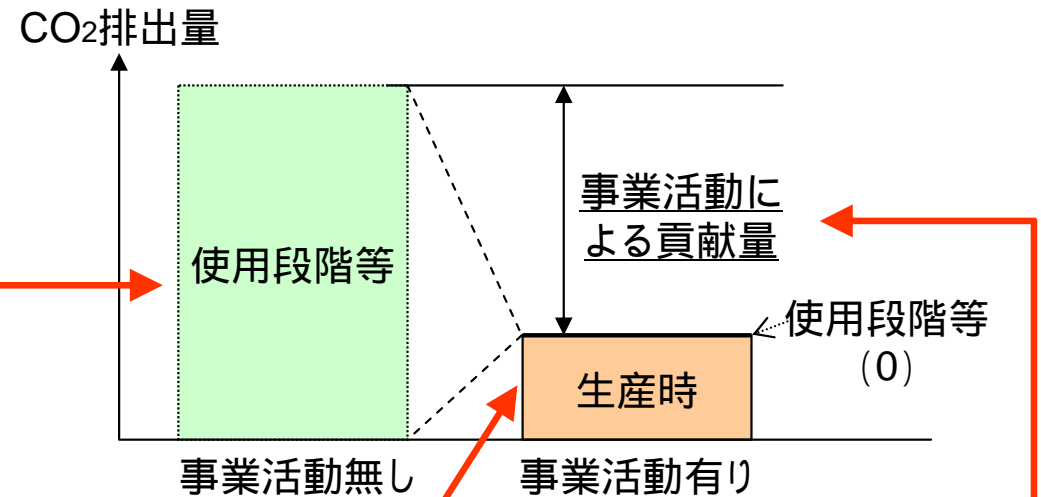


事業者の貢献  
(新たな評価)

省エネ効果の高い製品・サービスや再生可能エネルギーを活用する製品などを生み出すことで、それらが無い場合と比べて、使用段階も含めた社会全体での温室効果ガス排出量を削減すること。

### (例) 太陽光発電システムの生産による貢献

太陽光発電システムの生産をしなければ、CO<sub>2</sub>排出を伴う火力発電を含む系統電力が使用されるため、電力使用時に多くのCO<sub>2</sub>が排出される。



一方、県内で太陽光発電システムを生産した場合、県内では太陽光発電を生産するためにCO<sub>2</sub>が排出される。

しかし、太陽光発電システムは生産された後、県外や国外で使用される段階で、CO<sub>2</sub>は排出されないため、事業活動をした方が社会全体ではCO<sub>2</sub>排出が削減される。

(この削減量が事業活動による貢献量)

# 《参考》貢献量評価に関する主な国内動向

団体名	備考
<p><b>(一社)日本経済団体連合会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「経団連低炭素社会実行計画」(2013年1月17日)の中で、各業界団体の取組に低炭素製品・サービスの普及を通じた2020年時点での削減を位置づけている。</li> </ul>	-
<p><b>(一社)日本電機工業会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 電気・電子製品の使用を通じた削減貢献量の算定方法について、国際標準策定に取り組んでいる。</li> </ul>	-
<p><b>グリーンIT推進協議会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 電子部品、ソフトウェアの性能向上と使用による社会の変化を通じたGHG削減効果算定を検討している。</li> </ul>	経産省が主導して設置した団体。
<p><b>(一社)日本化学工業協会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 化学製品の部品・素材の利用を通じた世界(ライフサイクル)でのGHG削減効果について、算定・評価手法をとりまとめ、公表している。</li> </ul>	-
<p><b>(一社)日本自動車工業会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自動車の低燃費化によるライフサイクルでのGHG削減効果について検討している。</li> </ul>	-
<p><b>環境省・経済産業省</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● サプライチェーン排出量の算定方法を検討する過程で、同算定方法の利用法として貢献量評価についての議論もされていた。</li> </ul>	主眼は、排出量把握に関する国際標準準拠の検討。
<p><b>川崎市</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 省エネ製品等のGHG削減効果について、計画書制度で記載するための「域外貢献量算定ガイドライン」、「川崎メカニズム」を作成、公表。</li> </ul>	市域推進計画の目標は、貢献量をオフセットして評価。

# 1 - 4 . 手引きの目次と各章のねらい

## 目次

### 【解説編】

1 はじめに

2 製品等を通じた貢献量評価の目的

3 貢献量評価の基本的考え方

4 貢献量の算定方法

貢献量評価に関する目的や基本的な考え方など、算定を行う際のベースとなる情報を記載。

算定の流れや、算定において設定する各条件に関する解説を掲載。

### 【実践編】

実践編 1 算定作業シート

実践編 2 算定事例

実践編 3 貢献シナリオ例

実践編 4 代表的製品のLCA事例

実践編 5 算定に用いるデータの情報源一覧

貢献量評価の作業について順を追って検討するための、書き込み式シート。空欄を埋めながら考えることができる。

検討の流れと、算定結果について、具体的な事例を掲載。

算定作業を行う上で参考となるデータや情報源の所在などに関する情報。

# 1 - 4 . 手引きの目次と各章のねらい

## 目次

### 【解説編】

1 はじめに

2 製品等を通じた貢献量評価の目的

3 貢献量評価の基本的考え方

4 貢献量の算定方法

貢献量評価に関する目的や基本的な考え方など、算定を行う際のベースとなる情報を記載。

算定の流れや、算定において設定する各条件に関する解説を掲載。

### 【実践編】

**実践編 1 算定作業シート**

実践編 2 算定事例

実践編 3 貢献シナリオ例

実践編 4 代表的製品のLCA事例

実践編 5 算定に用いるデータの情報源一覧

貢献量評価の作業について順を追って検討するための、書き込み式シート。空欄を埋めながら考えることができる。

検討の流れと、算定結果について、具体的な事例を掲載。

算定作業を行う上で参考となるデータや情報源の所在などに関する情報。



# 1 - 5 . 製品等を通じた貢献量評価の基本的考え方

## ■貢献量評価の対象に想定する事業活動

- ✓ 使われることによって社会全体で温室効果ガス排出削減に繋がる**製品・技術やサービスを生み出す事業活動**を広く想定。
- ✓ 県内産業の特徴である製造業では、以下の活動を想定。
  - ・省エネ製品等もしくはこれに組み込まれた技術の**生産**
  - ・省エネ製品等もしくはこれに組み込まれた技術の**研究開発**
  - ・省エネ製品等の**生産プロセス技術の確立**
- ✓ **製造業以外の事業活動も、社会全体で温室効果ガスの排出削減に繋がるものは、対象とする。**

(例)

- ・省エネ製品・創エネ製品の販売
- ・環境格付融資
- ・レンタサイクルサービス など

## ■貢献量評価手法の検討スタンス

- ✓ 貢献量評価は、ライフサイクル全体での評価が基本。
- ✓ しかし、より広く**貢献量評価の取組**を普及するため、部分的に手法を簡素化する考えを採用する。

# 1 - 5 . 製品等を通じた貢献量評価の基本的考え方

## ■部品・素材の生産を行う事業活動の評価

- ✓ 省エネ製品等に組み込まれる部品・素材の生産や研究開発は、いずれも低炭素社会づくりに貢献するものと認識。
- ✓ 一方で、部品・素材の貢献量については、各業界で算定方法が検討中であること、またその検討においても複数の方法が提案され、同列に議論されている状況にあることから、一つの方法に限定することは困難である。
- ✓ このため、部品・素材による貢献量の算定困難な場合は、部品・素材が組み込まれた**最終製品等**が社会にもたらす**削減効果全量**で把握する。
- ✓ ただし、削減効果全量で把握する場合は、製品等の生産に対する事業所の役割(どの機能に係る部品生産を行ったか、など)を記載することで関係を明らかにする。

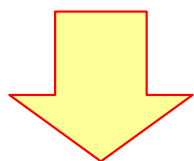
## ■生産段階の排出量と貢献量の関係

- ✓ 事業者行動計画書制度において、生産段階の排出量と貢献量は、それぞれが別の評価軸として記載され、公表される。
- ✓ 今後、貢献量評価の算定事例や算定に必要な情報の整備が進み、高い妥当性や公平性を満足する算定が可能になった段階で、生産段階の排出量と貢献量の相殺評価に必要な要件の整理等を検討する。

## 2 . 算定の具体的な流れ

### 【評価対象の把握】

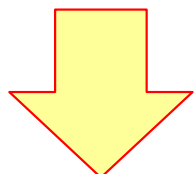
#### 1 . 評価対象の特定(事業活動、効果発現製品等の種類)



- ✓ 評価対象とする事業活動の種類を特定する。
- ✓ 評価対象とする製品の種類を特定する。



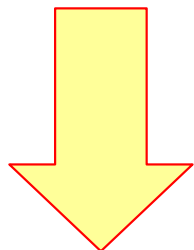
#### 2 . 評価する製品等の範囲の設定



- ✓ 事業者が多岐にわたる種類や機種の製品等を生産している場合、評価する製品・機種を設定する。

### 【貢献シナリオの検討】

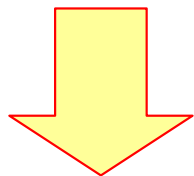
#### 3 . 時間軸の設定



- ✓ 貢献量を評価する時間軸を設定する。  
(製品の全使用期間(商品寿命)における削減効果を報告対象年度に評価することを基本とする。)

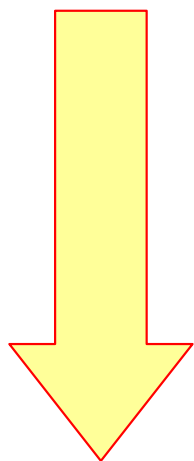
## 【貢献シナリオの検討】

### 4 . 使用先の範囲の設定



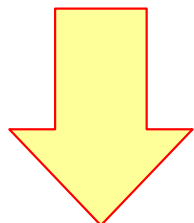
- ✓ 製品の使用場所を設定する。  
(県内外、国内外を問わず評価することを基本とする。)

### 5 . ベースラインの設定



- ✓ 何と比較して貢献量とするか、ベースラインを設定する。以下の3種類を想定。
  - 現在生産されている「標準的な製品」  
(他より性能が高い製品の貢献を評価する場合に採用)
  - 「過去の製品」(or現在普及している製品)
  - 新たな技術によって置き換えられる従前の状態  
(例:太陽光発電で置き換えられる系統電力)

### 6 . 評価する活動範囲の設定



- ✓ 製品のライフサイクルの段階のうち評価する活動範囲を設定する。  
(ライフサイクル全体を基本とするが、一部の段階(使用段階など)での評価もできる。)

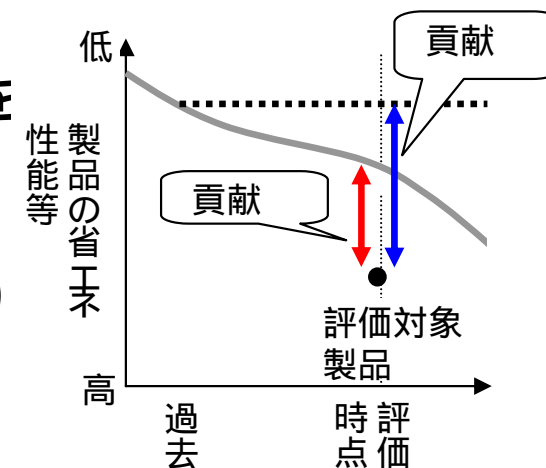
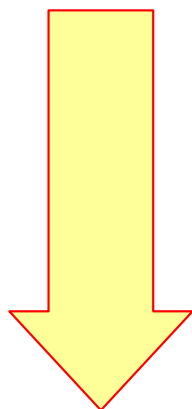


図. と の違いのイメージ



### 【貢献シナリオの検討】

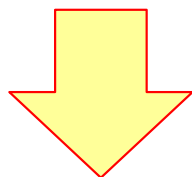
#### < 任意 > 7 . 部品・素材の評価方法の検討



- ✓ 部品・素材の生産について、どのように評価するか検討する。
  - ・業界の算定方法や、評価する部品・素材を組み込んだ最終製品と組み込んでない最終製品と比較する算定方法などが考えられる
  - ・上記での算定が困難な場合は、**組み込まれた最終製品等が社会にもたらす削減効果全量で把握**する。  
(ただし、最終製品生産における事業所の役割を示す。)

### 【関係諸情報の収集・算定】

#### 8 . 算定に必要なデータの収集



- ✓ 算定に必要なデータ(例:製品の使用年数、排出係数等)を収集する。

#### 9 . 算定



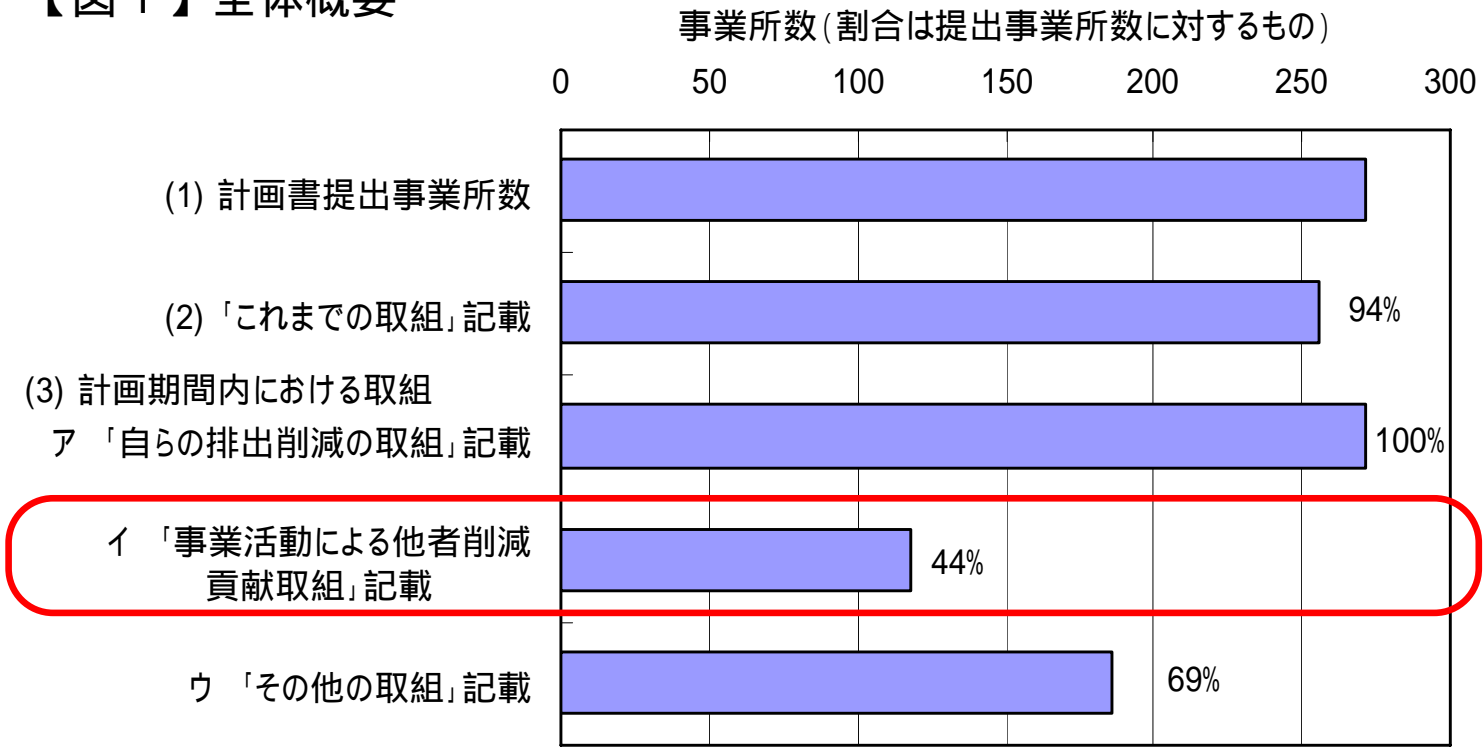
# 3 . 貢献量評価の活用

# 3 - 1 . 事業者行動計画書での活用

「これまでの取組」記載 256件(94%)

「計画期間内における取組」  
 ア 「事業者自らの温室効果ガス排出削減のための取組」記載 271件  
 イ 「事業活動により他者の温室効果ガス排出削減に貢献する取組」記載 118件  
 ウ 「その他の低炭素社会づくりのための取組」記載 186件

【図1】全体概要

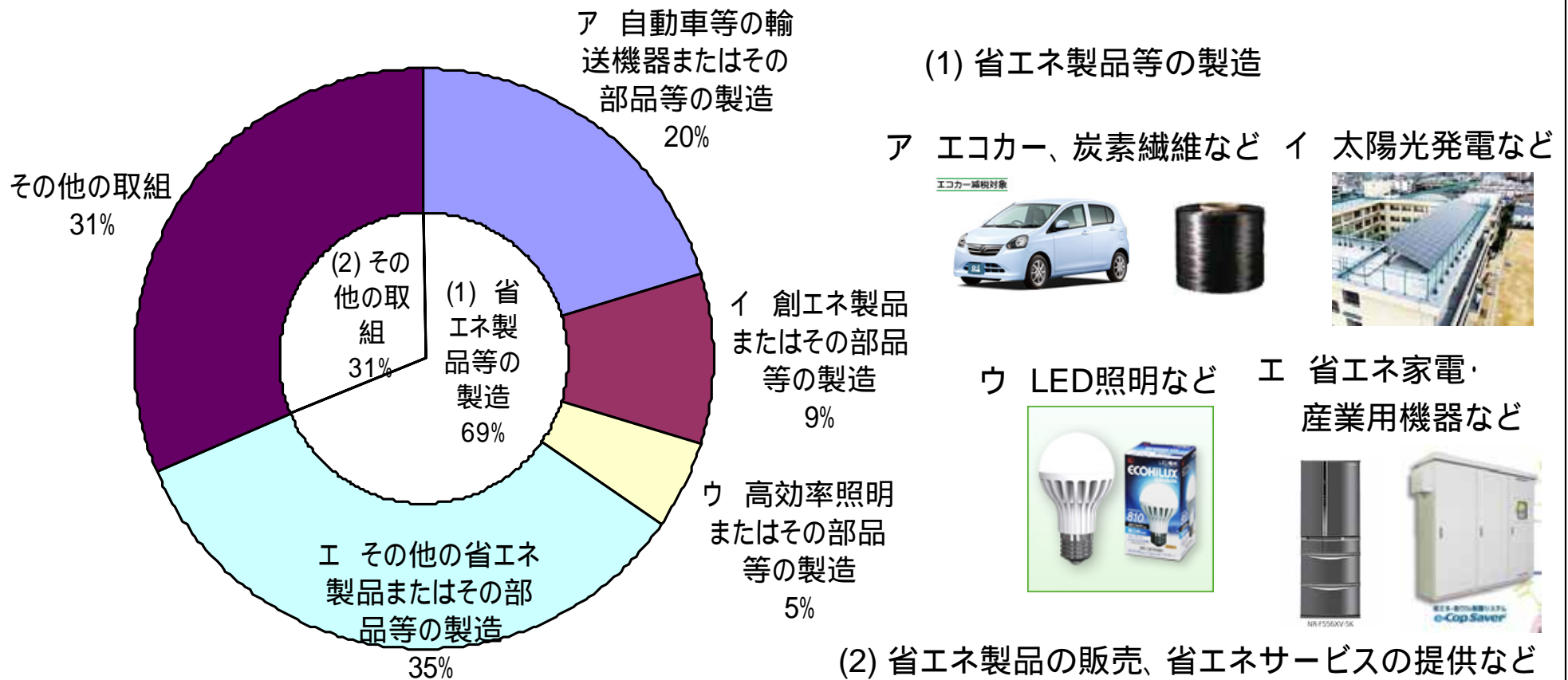




# 3 - 1 . 事業者行動計画書での活用

## 「事業活動により他者の温室効果ガス排出削減に貢献する取組」の内容内訳(図3)

【図3】事業活動による他者への貢献取組の内訳

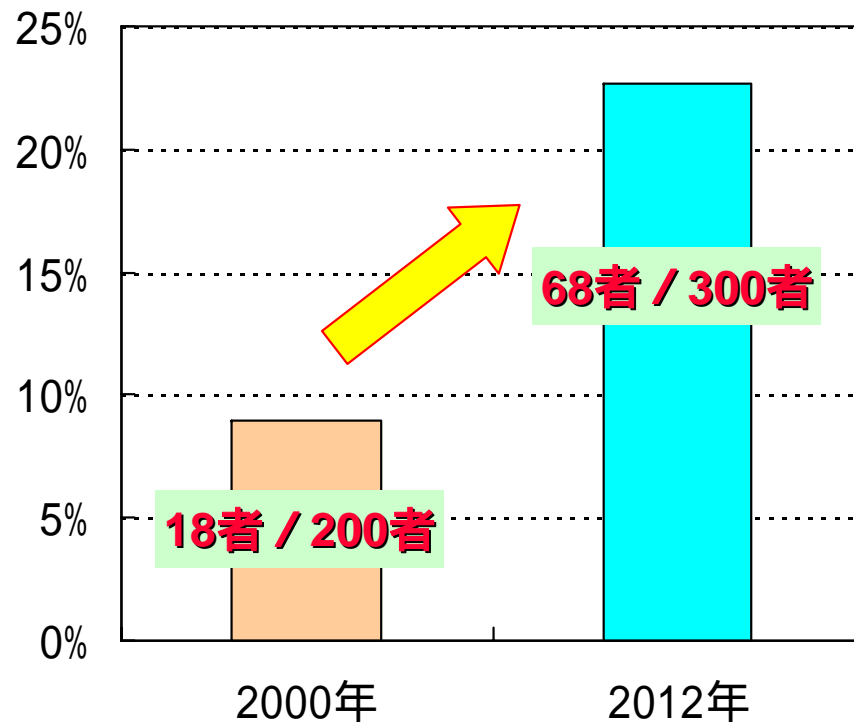


**定量的な記載の件数 38件(提出事業者全体の14%)**

## 3 - 2 . その他の場面での活用

- ✓ 滋賀県が開催している「びわ湖環境ビジネスマッセ」において、エネルギー関連での出展者割合は増加している。
- ✓ 今後は、これらの場における効果的なアピール情報として、貢献量評価が活用できることも期待される。

「びわ湖環境ビジネスマッセ」における  
エネルギー関連出展者割合



## 貢献量評価の算定補助

- ✓ 貢献量を算定する県内事業所への算定支援(算定方法の助言等)を行います。

### 評価対象製品等の検討

- 評価対象製品の協議
- 算定に必要なデータの確認

### 貢献シナリオ・算定方法の検討

- 算定方法のご提案

### 関係諸情報の収集・算定

- 算定シート作成
- データ収集支援

- ✓ 算定支援への参加希望について、アンケートへのご協力をお願いいたします。